

岸から30m程のスラブ滝が入っている。たまには滝も登りたいので、この滝を直登してみる。沢幅がせまくなり水量も減ってきた。ミスナ、アイコなどの山菜をつみながら登る。11時40分沢が二分した。右沢はすぐ上でカレ沢となっているが、先はまだありそうである。左沢はすぐまた二つに分かれ、左側は30m程の滝となっている。3人がそれぞれの沢を少し登って偵察した結果、結局一番左の沢に入る。30mの滝を直登した萩原君の弁、「一番最後のところがちょっとしんどかった」。すぐ水もかれる。カモシカの足跡のいっぱいあった。12時10分。

(記)

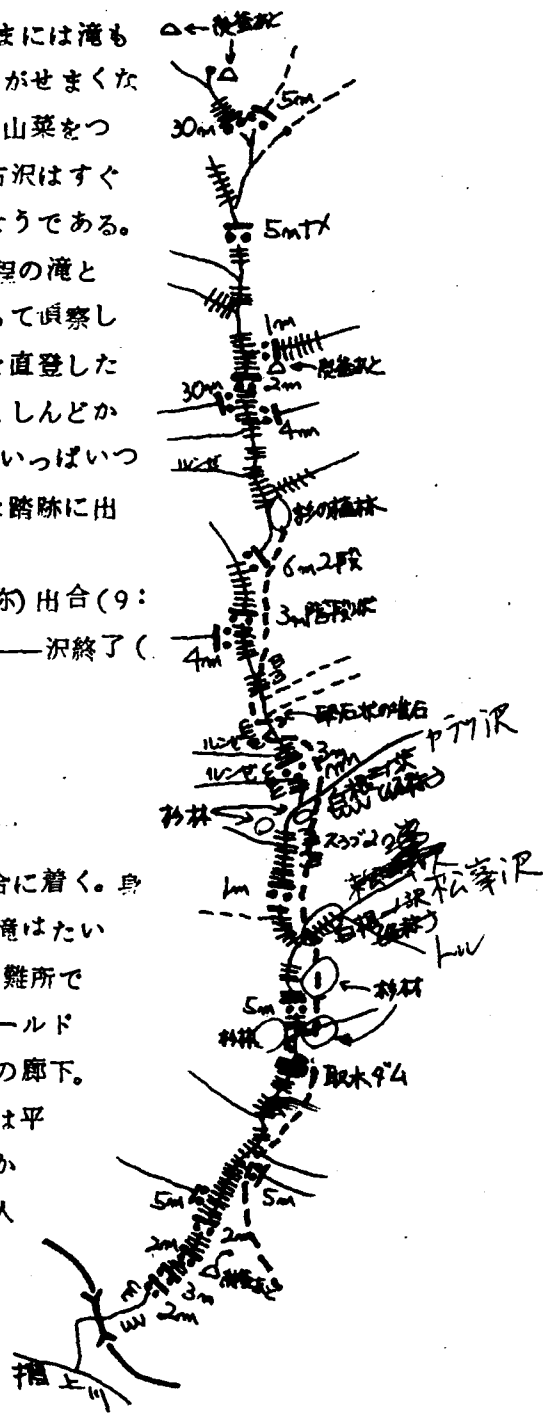
白根沢出合(7:50)——白根一ノ沢(仮称)出合(9:00)——白根二ノ沢(仮称)出合(9:20)——沢終了(12:00)——踏跡(12:10)

手沢

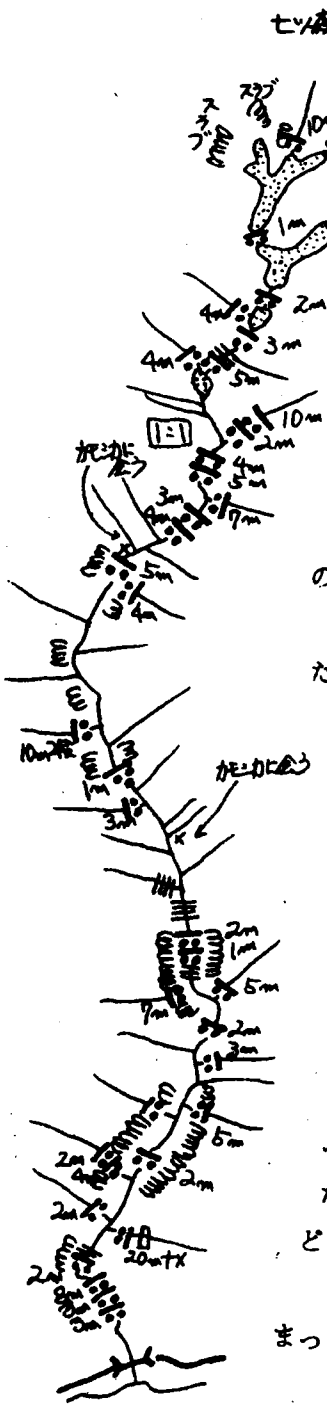
1981年7月12日

L₂

鳥川林道起点から徒歩約1時間で手沢出合に着く。身仕度をして出発。出合から暗い廊下が続く。滝はたいしたものはないが、ちょっとした難所である。へつりで通過する。岩は花崗岩層でホールド豊富。フリクションもよくきく。続いて第2の廊下。小滝が2つかかるが、へつりで通過。この先は平凡な河原歩きとなる。イワナの姿を見る。なかなかの大物がいる。数も多そうだ。普通の釣人は下流の2つの廊下あたりで引き返していくせいだろう。ちょっとした深みにいくつもの姿をみる。前方から犬のようなものがかけてきた。カモシカだ。しかもまだ子供のカモシカである。我々の目前でUタ



白根沢(作図:)



ーンして右手の支流に入りこんでいった。

平凡な河原歩きにいいかげんあきてきた頃、滝が出てきた。落差5m。本流にかかるはじめての本格的な滝である。右岸を登って上に出る。仲間2人が上がってくるのを待っていたらまたカモシカが出た。この沢には出合から源頭まで随所に足跡がついていた。通り道としてひんぱんに利用されているようだ。4~5mの滝が続く。通過にあまり困難はない。そして二俣。左俣の方が本流のよつだが、右俣には10m程の滝があつて、こっちの方へ入ってみたい誘惑にかられる。

奥からすずしい風が吹いてきた。どうも雪渓がありそうだ。今年は、冬の豪雪を反映してか、いくら沢筋とはいえ茂庭のような低い所で7月というのに雪渓があちこちで見られる。最初は今にもくずれ落ちそうなスノーブリッジ。1人1人離れて慎重に通過。5mの滝を直登した先にもまたスノーブリッジ。そしてその先は200m程の二俣になった雪渓である。そしてその先に更に1km程の雪渓。見上げる前方にスラブをつけたセツ森。急傾斜でどんどん高度をかせぐ。この傾斜と周囲の岩質からして、雪がとけたらどんな滝が顔を見せるだろうか。

雪渓の最上部で一休み。すでに雪が消えて草々のしげった中に、黄色の花が咲き乱れている。ニツコウキスグみたいだ。茂庭にニツコウキスグなんて聞いたことないが、どうもそうみたいだ。

最後のつめは浮石と、雪崩で根こそぎにされた樹木のつまったルンゼを登る。15:05セツ森北方の尾根上へ。

(記)

手沢(作図)

手沢出合(9:00)——二俣(12:20)——セツ森北方尾根(15:05)